

大学生の学力不足問題を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聴いていただきありがとうございます。いよいよ来週は県立入試です。受験生の皆さんには、実力が発揮できるよう頑張ってもらいたいと思います。

今日は、大学生の学力不足問題を考えてみたいと思います。今は中学生の約 98 %が高校へ進学します。そして高校生の約 74 %が大学、短大、専門学校等の高等教育機関へ進学します。ところが、この大学生達が学力不足であるということで非常に問題になっています。そこで、私の結論は、高校を卒業するまでに自分で勉強する能力を身に付けようということです。

では、なぜ大学生なのに学力不足なのでしょう。それは、高校受験があるので、中学3年生までは一所懸命、文字通り1つの所で命をかけるくらい熱心にほぼ全員が勉強して、高校に入学します。ここまでは、世界に誇れるくらい素晴らしいのです。ところが、この後は、進学校といわれる高校に通う高校生を除き、勉強をしなくなってしまう。ある統計では、高校生の約 50 %は平日における学校以外での学習時間が0分です。つまり、全く勉強していないのです。そして、1時間半以下が全体の80 %を占めます。2時間以上は、わずか20 %にすぎません。中学校の時よりはるかに難しい内容の勉強をするのが高校なのに、学校以外でほとんど勉強しないのでは、高校生として必要な学力は十分に身に付きません。高校では、学校の授業を真剣に受けるのはもちろんですが、授業の進度が速く内容も難しいのですから、予習・復習が必要です。ところが、それをせずに高校生として十分な学力が身に付かないまま大学へ進学してしまうと、学力不足となります。

では、なぜ学力不足であるのに大学へ進学することができるのでしょうか。それは、大学などの高等教育機関の定員と受験生の数がほぼ同じになってしまったからです。つまり、どこの大学でもよければ入学できるようになり、大学に進学すること自体はそんなに難しくなくなってきたのです。しかし、大学の先生方はレベルを落としたりしませんから、授業や研究の内容は以前と変わらない場合がほとんどです。ですから、高校生の時のようにボーッと授業を受けていたのでは、大学の授業内容は理解できません。実際、学年末試験が終わった大学では、困り果てている先生が多いです。なぜかという、成績が悪く留年させなければならない学生が以前に比べて多く、非常に大変な状況が起きているからなのです。

そこで、大学の教育を受けるようになるまでに、自己学習能力を身に付けることが重要になってきます。ですから、高校入試を来週終える皆さんに、そこで勉強のスピードをゆるめずに、高校の勉強

にどんどん取り組むことをお勧めします。予習も大切ですが、勉強したことを復習し、定着させるための作業を繰り返し行うことも重要です。高校での勉強をしっかりと行い、自分の行きたい大学、短大、専門学校へ進学して下さい。就職も、成績が悪いと思うようにいきませんので、しっかりと勉強して下さい。